

高さ110メートル、幅20メートルの神庭の滝は、中国地方最大の滝の1つである。滝のてっぺんから、連続する黒い火山岩の岩棚の上を、水が転がり落ちてくる。まるで、山水画の世界が現実になったかのようである。水の流れは、幅の狭い岩によって分割されながら、滝の底に落ちていく。この岩は、上流に向かって泳ぐ巨大な魚に外観が似ているため、「鯉岩」と呼ばれる。この、葉書にするのにぴったりな眺めのおかげで、神庭の滝は、日本の最も美しい場所を掲載するいくつかのランキングで上位に入っている。

神庭の滝は、100ヘクタールの自然公園の中にある。よく整備された小道が、滝の麓までつながっている。沿道には、岩だらけの川床を流れるせせらぎを見ることができ、この脇に立ち並ぶカエデ、桂、ケヤキは、夏は青々と緑に茂り、秋は彩り豊かな赤と黄色に変化する。毎年春には、フクザクラと呼ばれる桜の木の種類が、小さな菊を連想する、けば立った花を咲かせる。一つの花は、何百枚という花瓣を有する場合があり、それぞれが、中心部の暗い赤紫色から縁の薄いピンク色まで、徐々に明るい色に変化している。

小道は、玉垂れの滝（おおむね「水滴が滴り落ちる滝」という意味）と呼ばれる、風光明媚なもう一つの滝を通る。細流が、苔で覆われた岩棚に沿って少しずつ流れ、その後、ポロンポロンという優美な音を立てながら、下にある小川に流れ込む。この光景は、雨が草葺き屋根を流れ落ちる様子に似ており、滝の名前の由来にもなっている。

この公園には、約160匹の野生のニホンザルが住んでいる。日本固有の種であるニホンザルは、世界中のあらゆる非ヒト霊長類種の中で、最も北に生息し、生息域は本州最北端にまで及んでいる。神庭の滝のニホンザルの群れは、山の高い所で食べ物を探して多くの時間を過ごすので、いつも滝の近くで見られるというわけではない。しかし、幸運な観光客であれば、春に母親がぐずる赤ちゃんを抱いてあやす様子や、夏に若い猿が騒々しく鬼ごっこをする様子や、秋に鮮やかな緋色の顔（交尾期の合図）をした大人の猿を目撃するかもしれない。猿は食べ物を奪い取ろうとするので、観光客の、公園内への食物の持ち込みは制限されている。